

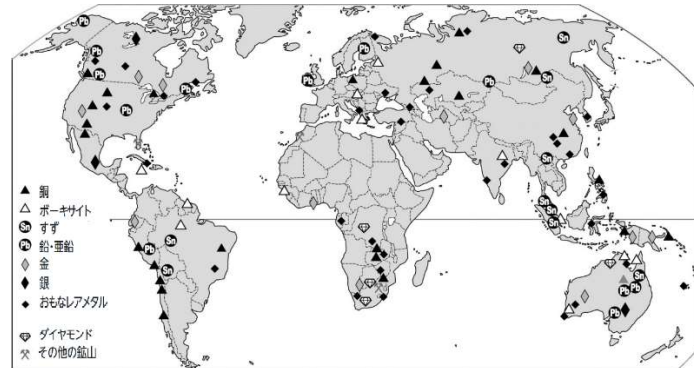
第3章	エネルギー資源	学習日 月 日	名前
-----	---------	------------	----

教科書 P～ 要点ノート P70～

【資源の種類と利用】

① 金属資源 … 鉄鉱石・銅鉱・ボーキサイト・鉛・亜鉛など

※ 金属とは自然の岩石からつくるもの。したがって、原料は自然の岩石である。



分布で覚えること

(1) … 環太平洋火山帯に多い

生産国 = (2), (3)、中国、アメリカ

ボーキサイト … (4) に多い (ラトソル)

※ ボーキサイトから(5) を作るには大量の電気が必要(電気の缶詰)

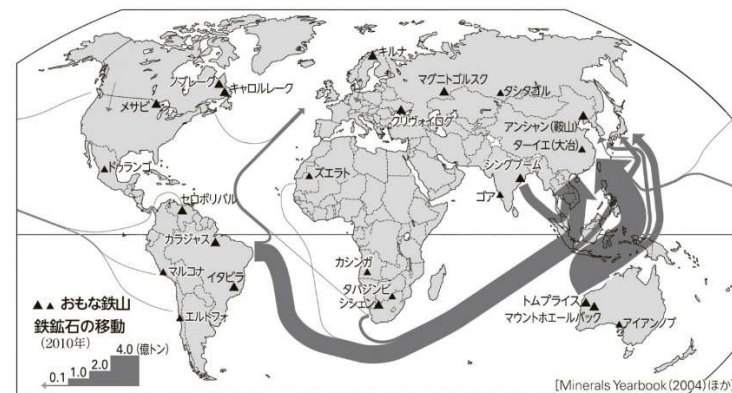
したがって、大規模な水力発電所を有する国で生産がさかん。(アメリカ・ロシア・カナダ・中国等)

(6) … もともと埋蔵量が少ない・取り出すのが難しい金属のこと。先端技術産業に欠かせない。

政情不安定な国での産出が多い = (7) ・アフリカ諸国・ロシア・南北アメリカ諸国

※ 日本はレアメタル7種類の60日分を備蓄する制度を定めている。

(ニッケル・クロム・タングステン・コバルト・モリブデン・マンガン・バナジウム)



メサビ(アメリカ)、カラジャス・イタピラ(ブラジル)、キルナ(スウェーデン)、ゴア(インド)、アンシャン・ターイエ(中国)等が有名

② 様々な資源・エネルギー問題

(8) =メジャー)

当初、油田開発や石油精製の技術がなかった西アジアに代わって採掘や輸送を行う国際的な石油会社の総称

・ 利益の大部分を先進国が独占する。

・ (9) の動きが高まる

(自国の資源を経済的自立と発展に結びつけようという考え方)

・ 1960 (10) =OPEC)結成、OPEC が原油価格・産油量の決定権を獲得

原加盟国はイラン・イラク・クウェート・サウジアラビア・(11)

(12)

1973年(第四次中東戦争の影響)と1980年(イラン革命の影響)の2度起こる。産油量の削減と価格高騰によって生じた経済の混乱のこと。産油国は巨額の利益を獲得した。

→ 1980年代、石油危機の教訓から先進国は石油の備蓄、油田の開発、省エネルギー、エネルギーの多様化を進める。

→ 2000年代、中国やインドの需要が増加、再び原油価格が上昇

(13)

原油価格が高値で推移するようになったが、資源ナショナリズムによって石油や天然ガスの利益が生産国に移ってしまったため、メジャーはシェールガス・シェールオイル・オイルサンドなどの非在来型の化石燃料の開発を進める。

問題点として、地下水汚染など環境への悪影響。

(14) … 廃棄物に含まれる資源

